



開物成務

令和5年 10月17日(火)発行

校長 津田 千由美

練習も「全力・楽しく・自分らしく」

青く澄み渡る空を仰ぐたびに、「天高く馬肥ゆる秋」という言葉がよぎります。言葉どおりのさわやかな季節となりました。天気にも恵まれ、運動会に向けて着実にあゆみを進めています。

団体種目～1・2年生の姿～

1・2年生の団体種目は「ワン！ツー！ハリケーン」です。1本の長い棒を、4人がワンチームとなり力を合わせてできるだけ速く運ぶ競技です。3色のリレー形式で競います。特に難しいのは、コーンを回るところです。360度ぐるりと回らなければならないので、遠心力をうまく使ったり、外側の人と内側の人の方が走る速さを変えたりする必要があります。初体験という1年生も多いことでしょう。それでも先生の注意事項をよく聞き、2年生の姿を目で追いながら、練習するたびに上達しています。

「2年生が手本となって1年生をひっぱっていきながらがんばるんだよ」

「次の時間は、先生たちが言わなくても自分たちでできるようになるといいです」

毎時間の目標を伝え、できたことを認めながら、子どもたちの主体性を育てています。

表現種目～3・4年生の姿～

「次は表現の練習をするよ」の先生のかげ声に、「わーい！」と、体育館中に響き渡るような声で子どもたちが応じます。3・4年生は表現運動が大好きな様子です。

4年生は、当日着用する法被にクラスの想いを漢字一文字で表現しました。



ある日の3年生の表現運動「ミックスナッツ」の練習では、クラスごとに発表した後、互いのよさを評価し合っていました。

「〇〇さんは、大きく笑顔で踊っていてよかったです」

「〇〇さんは、止まるときと動かすときのメリハリをつけて踊っていました」

一人ひとりの運動会にかける想いや、運動会までのプロセスを大事にする姿が感じられます

裏方さんたちの働き～5・6年生の姿～



大きな行事である運動会を円滑に運営するためには、5・6年生の力が欠かせません。常設の委員会活動を中心に役割分担がされ、並行して応援委員会も立ち上がりました。

今年度は150周年を祝し、ラジオ体操に代わり、全校で「かいせいマーチ」を踊ることになりました。体育委員会の子どもたちは、朝の時間を使って低学年の各教室を回り、かいせいマーチを教える活動に取り組みました。

音楽委員会は、各教室でも「運動会の歌」の練習ができるようにと、自分たちが手本となり歌う様子を録画しました。どの子も元気に明るくすてきな表情で歌っています。よい手本のおかげで、学校中に元気いっぱいの歌声が広がっています。

応援委員会も、朝は応援の仕方を教えに、昼は練習にと、大忙しです。

全て紹介しきれませんが、その他の委員会も今から少しずつ準備を進めています。当日は、委員会の子どもたちの動きも見守っていただけると嬉しいです。

10月28日(土)は、4年ぶりの全校による運動会です。子どもにとっても大人にとっても思い出深い運動会となるよう、あたたかい声援と譲り合っただけの見学にご協力をお願いいたします。開門時刻や約束事等の詳細については、9月21日付文書で今一度ご確認ください。なお、立ち見での見学となりますので、休憩場所として体育館を開放いたします。マナーをお守りいただき、適宜ご利用ください。

校外学習へのご協力、ありがとうございます！

昨年度の今頃はなかなかできなかった校外学習が、今は完全復活しています。運動会の練習の合間を縫って、1年生は松ノ木公園へ、2年生は商業施設や公共施設へ、3年生は消防署や水辺スポーツ公園へ、4年生は浄水場へ、5年生は田んぼへ、6年生は町役場へ出かけ、体験的な学習を行いました。こうした郊外での活動が成り立つのは、地域の皆様のおかげ。心より感謝しております。



5年生は、鳥海前教育長さんの田んぼをお借りし、これまで代かき、田植えなどの農作業を体験してきました。夏休み明けには、学級ごとに2体の案山子づくりにも挑戦しました。

今年は生育がよく、9月下旬のまだまだ残暑厳しい中、稲刈り鎌を初めて握り、稲刈りをしました。師匠である鳥海先生の手本を見て「わあ、すごく上手！」と歓声を上げていた子どもたちも、回を重ねるごとに上達していきました。

刈り取ったばかりの新米を一人一合ずつ持ち帰り、残りは調理実習で使用する予定です。自分達も参加した米作り…その味は格別なことでしょう。



10月4日(水)、6年生が社会科の学習で町議会を見学しました。議場に入ると、山本議会議長さんが子どもたちをあたたく出迎えてくださいました。町議会のしくみや進め方などを教えていただき、その後はいよいよ子どもたちが模擬議会議を体験する時間となりました。

あらかじめ、子どもたちは町の行政機関への要望を考え、シミュレーションするなどの準備をしてきました。校長が仮の町長役となり、子どもたちは行政側と議員の二手に分かれ、模擬議会議が始まりました。

「開成町にもっと人が集まるように、大型ショッピングセンターをつくとよいと思います」
始めのうちは緊張状態だった子どもたちも、仲間の発言に少しずつ後押しされ、だんだんと議論が白熱してきました。

「将来、またこの議場に戻ってきてください。そして、さらにすてきな町づくりをしてください」
山本議長さんからいただいた言葉のように、開成町の将来を担う子どもたちに成長してくれることを楽しみにしています。

ラグビーワールドカップでは、日本人選手による試合終了後のごみ拾いが話題になっていましたが、開成小学校の子どもたちも負けてはいません。公園などに校外学習に出かけた際には、帰り際によくごみ拾いをしています。先日も、こんなにたくさんのごみが集まりました。自分が捨てたごみではありませんが、「次に使う人が気持ちよく使えるように」という思いから始まったそうです。思いやりの心がいっぱいあったすてきさんたちの行動です。



「どうしてできないの! (WHY?)」
子育てをしているとき、ちょっとしたことでもこんな言葉を子どもに吐き出している自分がいました。こんなときは、いろいろなことに追い詰められて心にゆとりがないときでした。

先日、2歳、3歳、4歳の3人の孫と一緒に公園へ行きました。砂場で遊んでいるとき「ケンパーケンパーケンパーをしよう」ということになりました。私が砂場に○をかき手本を見せると、早速一番上の4歳の子が私の真似をし始めました。すぐにできるようになりました。

すると、今度は2歳の子が大好きなお兄ちゃんの真似をしてみたくなったようです。両足で一生懸命にケンパーみたいなきを始めました。見ていたみんなに「上手!」と褒められ、上機嫌になりました。

さて、困った表情をしているのは真ん中の3歳の子。「できる自信はないけれど、小さなプライドがある」といった様子です。一番遅れてやってきました。

「ケンパーケンパー」までは難なくできました。でも、リズムが変わる「ケンケンパー」になると、「ケンパー」になってしまうのです。だんだんと泣き顔になってきました。

そこで、私は「一時停止作戦」を考えました。「ケンパーケンパー」のあとに「止まれ」の線を引き、そこで一度止まらせ、「次は、ケンケンパー、ケンケンパー」と唱えました。この作戦は大成功!

さっきの泣き顔はうそのように「見て!見て!もう一回!」と自信満々です。律儀に一時停止をしては、「ケンケンパー」と唱えてから跳ぶを、何度も繰り返し返していました。

私も、子どもや孫に育てられています。

「WHY?」の言葉がけは、どうしてもきつくなりがちです。「WHY?」と聞かれて明確に答えることもできません。「WHY?」ではなく「HOW?」(どうしたらできる?)と発想を変えた方が、子どもにとっても自分にとっても幸せな時間となること、間違いなしです。



わたしのひとりごと...